

## 2007年WPA アジア地区大会に参加して

橋本直樹<sup>1,2)</sup>, 杉浦寛奈<sup>1,3)</sup>, 長峯正典<sup>1,4)</sup>, 佐藤玲子<sup>1,3)</sup>, 和気洋介<sup>1,5)</sup>,  
加藤隆弘<sup>1,6)</sup>, 鈴木友理子<sup>1,7)</sup>, 藤澤大介<sup>1,8)</sup>, 佐藤創一郎<sup>1,9)</sup>, 上原久美<sup>1,3)</sup>

2007年4月18日から21日までソウル市で、WPA Regional Meeting 2007が開催された。この学会は世界精神医学会 (World Psychiatry Association: WPA) の東アジア地方会とも言うべきもので、東アジア地域で精神科医療に携わる多くの精神科医およびコメディカルスタッフが参加した。本学会では、会期の一日目に Workshop on Development of Professional and Academic Skills of Young Psychiatrists と銘打って、東アジアの若手精神科医の研修と交流の為にワークショップがもたれたが、我々日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrists Organization: 以下 JYPO) は、かねてより韓国をはじめとする東アジアの若手精神科医との交流を進めており、企画段階からこのワークショップへの協力を依頼されていた。最終的に8名のメンバーが学会に参加し (ワークショップへの参加は6名)、JYPOで行った共同研究やそれぞれの専門領域での研究結果を発表し、東アジア各国の精神科医と討論し、交流を深めた。学会に参加した各メンバーに学会の様子を報告していただいた。

(橋本直樹, 2000年卒, 北海道大学)

### 1 学会全体を通して

本学会のテーマは「Science & Humanism」で、

WPAらしく Bio-Psycho-Social の各分野にバランスのとれた多彩な演題がならんだ。個別の研究発表はポスターに限定され、口頭の発表は30のシンポジウムと10以上の教育講演、ランチョンセミナーなどにまとめられていた。

参加者は、韓国をはじめ、日本、台湾、インド、中国、マレーシア、スリランカなどアジア各国にわたっており、アジア諸国の先生方の熱心な質疑応答があった。韓国語と英語の同時通訳ブースが設けられているとはいえ、英語のセッションでも全く臆することなく発表や質問を行っている韓国の参加者の積極的な様子には圧倒された。

シンポジウムでの発表内容は、精神科医学教育や災害精神医学といったものから、中枢神経系の画像や遺伝子研究など生物学的研究の内容のものまで多岐にわたっていた。テーマが幅広いため、専門領域の学術集会とは勝手が違う面もあるが、WPA 関連の学会では、精神疾患の啓発、教育といった分野に関して他国の状況を知ることができ、普段あまり接することのない分野の発表をきくことができることが大きな魅力である。教育講演でも、東アジアや、世界のエキスパートの貴重な講演を数多くきくことができた。

本学会に参加した8名の JYPO メンバーは、それぞれ臨床や研究のバックグラウンドが異なり、

著者所属: 1) 日本若手精神科医の会 (Japan Young Psychiatrists Organization: JYPO), 2) 北海道大学大学院医学研究科精神機能学講座精神医学精神科, 3) 横浜市立大学医学部精神医学教室, 4) 防衛医科大学校精神科学教室, 5) 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学, 6) 九州大学大学院医学研究院精神病態医学分野, 7) 国立精神・神経センター精神保健研究所, 8) 慶應義塾大学医学部精神神経科, 9) 慈恵病院

受理日: 2008年3月1日

発表内容も各々異なるが、会期前から相互に連絡を取り合い、Young Psychiatrist Meetingでの発表内容の相談、それぞれの準備の状況の報告などから、宿泊場所や食事場所まで学会内外の準備を進めてきた。そのような仲間と一緒に参加することは、我々若手の精神科医が国際学会に参加する上では大変に心強く、学会期間をより充実して過ごすことができた要因となっていたのではないかと思う。

(佐藤玲子 1999年卒、横浜市立大学)

## 2 Workshop on Development of Professional and Academic Skills of Young Psychiatrists に参加して

このワークショップは、アジアの若手精神科医の学術的活動、科学交流、指導、研究の立案の技術を養成することを目的にしたものである。会議はProf. Norman Sartoriusをはじめとする各国のエキスパートにより企画され、アジア各国から若手精神科医が参加したが、なかでもJYPOはいち早く全国規模の若手精神科医の団体として活動を展開していたこともあり、熱心な参加の要請をいただき、企画段階から参加させていただくことができた。内容は秋山剛先生によるSkills of professional communicationの講義に始まり、各国の若手精神科医によるシンポジウム、口頭発表、ポスター発表、アジアの若手精神科医による共同研究の企画など非常に多彩であった。発表については、内容そのものに止まらず、スライドやポスターの作成法、プレゼンテーションの工夫などの技術的な側面にいたるまで、エキスパートからの教育的な指導や各国の若手精神科医による議論が行われた。

このワークショップではJYPOが精神科医の男女差のシンポジウムを企画、主催しており、私はGender difference in the field of psychiatry in Japanの口頭発表を担当した。精神科医の男女差に関する比較研究は、欧米で女性精神科医の比率の向上が目立った1990年台初頭に盛んに行われた研究であり、臨床、研究、教育の各分野での男

女の精神科医の業務や意識の差異について質問紙を用いて調査するものである。日本でJYPOが行っていた先行研究をもとに、韓国と台湾でも同じ質問紙を使用しての調査が行われ、それぞれの国の若手から結果についての発表がなされた。各国の共通点、差異点について議論が深まり、非常に興味深いシンポジウムとなった。

その後の口頭発表やポスター発表、アジアでの共同研究についても引き続き活発な議論が行われ、最後は今回の活動を今後のアジアの若手精神科医の連携につなげるために共同研究を発展させていくことを確認して閉会となった。

ワークショップへの参加、スライド発表など全てが私にとって初めてのことであった。一緒に参加してくれたJYPOの先輩医師がいたからこそ、自信を持って臨むことができたと思う。企画に参加したこと、役割を持って臨んだことの両方の点において、充実感を持って自分の成長を実感している。今後もこれらの企画が発展し、より多くの若手精神科医が経験できる機会があれば良いと思う。

(杉浦寛奈、2005年卒、横浜市立大学)

## 3 WPA Regional Meeting でのポスター発表に参加して

今回WPA Regional Meetingには、ポスター発表で初めて参加した。本学会においては教育セミナーとシンポジウム以外の発表はポスター発表に限定されており、3日間にわたり約300のポスター発表が実施された。当然のことながら、開催国である韓国からのポスターが非常に目立ったが、特に驚かされたのは、彼らのポスターのほとんどが1枚刷り印刷であったことである。構成は見やすく優れており、デザインについても鮮やかなものが多く、高いプレゼンテーション能力と積極性を感じさせられた。韓国の他にも多くのアジアの国からの参加があり、JYPOのメンバーからも8演題のポスターが発表された。

WPAは発表内容がBio-Psycho-Socialの全領域にわたることが学会全体の大きな特色である

が、ポスター会場で目にした発表に関しては生物学的精神医学の手法を用いた研究が多く、生物学的精神医学への関心が東アジア全体でもきわめて高いことが感じられた。

また今回ポスター発表に参加した者の中から30演題に対して、WPA Regional Meetingの実行委員会から Travel Award (US 500\$) が授与されるシステムがあり、JYPOのメンバーの発表から5演題が選ばれ、このような国際学会に参加するにあたっては非常に励みとなるように感じた。今後も国際学会に参加できる機会があれば、是非とも積極的に参加したいと思う。

(長峯正典, 1998年卒, 防衛医大)

#### おわりに (謝辞)

JYPO (日本若手精神科医の会) は若手精神科医が主体となり、国際的に通用する精神科医の育成と、国内外の精神科医との交流を目的とし、2002年6月に設立された。

我々の活動はこれまで、国内、国外の多くの先輩精神科医の皆様の暖かい賛同と、支援により継続してこることができた。本学会においても、Young Psychiatrist Meetingで直接のご指導をいただいたNTT関東病院の秋山剛先生をはじめとして、学会場や発表を通して多くの国内の諸先輩から暖かい励ましの言葉をいただいた。この場を借りて、心より御礼を申し上げます。

また、今学会においては、長らく我々の活動を指導していただいている Prof. Norman Sartorius の他、Prof. Jong-Gook Lee, Dr. Tae-Yeon Hwang など東アジアの諸先生からも御指導をいただく貴重な機会を得ることができた。これらの先生方にも、再度この紙面を借りて御礼を申し上げます。

本学会を通じて、多くのアジアの精神科医と新たな交流を持ち、アジア精神医学の状況を知ることができた。今後もより多くこのような機会を持ち、日本の若手精神科医のエネルギーを海外にアピールすると共に、国際的な視点をもって国内の活動の充実にも励んでいきたいと思う。

(橋本直樹, 2000年卒, 北海道大学)